

平成 20 年度第 2 回理事会議事録

日 時：平成 20 年 5 月 17 日（土）
15：00～17：15

場 所：拓殖大学 文京キャンパス
（茗荷谷）A館会議室

出席者：青木（弘）、蓮見、尾登、
青木（幹）、青木（史）、
伊豆、河原林、君島、工藤、
國本、久保、田村、長谷、
梨原、生田目、古屋、村上、
山中、井上、國澤、寺内、
小野

委任状出席：阿部、荒井、岡田、岡本、
勝浦、黒川、小林、坪郷、
野口、原田、降旗、松岡、
宮崎、渡辺

欠席者：五十嵐、杉山

1. 会長挨拶

青木会長より挨拶がなされた。

2. 平成 20 年度第 1 回理事会議事録の承認

（寺内本部事務局長）

平成 20 年度第 1 回理事会の議事録案
が示され、原案通り承認された。

【審議事項】

3. 平成 19 年度決算・監査報告

（國澤本部事務局長）

國澤本部事務局長より、平成 19 年度
の決算に際して監査を行った旨の報
告がなされ、資料に基づいて決算報
告がなされた。審議の結果、決算報
告が原案通り承認された。

4. 平成 20 年度予算案

（國澤本部事務局長）

國澤本部事務局長より、平成 20 年度
の予算（案）が示され、資料に基づ
いて説明がなされた。収入の部にお
いては、会費徴収率を向上させるこ
とによって前年度同様の収入が見込
まれる旨の説明があった。一方、支
出の部においては本部事務局経費や
印刷費、常設基金額、研究部会活動

経費と支部活動補助費の金額を変更
した旨の説明がなされた。審議の結
果、原案通り予算案が承認された。
また長谷理事から研究部会の活動費
を増額する旨の提案がなされ、研究
部会活動費を上限 5 万円とすること
が了承された。

5. 平成 20 年度活動計画について

（各委員長および各理事）

総会資料に基づいて、各委員長、委
員会等担当の各理事、各支部長から
平成 20 年度活動計画について説明が
なされた。その後、青木会長から各
委員会に委員会間の連携を強化して
ほしい旨の要請がなされた。最後に
青木会長より、平成 20 年度活動計画
の追加や変更がある場合は、5 月 31
日（土）までに本部事務局に連絡す
るよう要請がなされた。

6. 平成 20 年度春季研究発表大会について

（井上大会実行委員長）

井上大会実行委員長より、平成 20 年
度春季研究発表大会の発表プログラ
ムやポスター発表の詳細、大会専用
バス時刻などについて説明がなされ
た。また詳細プログラムを近日中に
公開する旨の報告がなされた。

7. グッドプレゼンテーション賞選考要領について

（工藤概要集編集委員長）

工藤概要集編集委員長より、第 55
回研究発表大会グッドプレゼンテー
ション賞の選考要領案が示され、資
料に基づいて説明がなされた。山中
理事と古屋理事より、審査方法につ
いて意見が出されたが、審議の結果、
選考要領案が原案通り承認された。

8. 平成 20 年度秋季企画大会について

（青木会長）

青木会長より、平成 20 年度秋季企画
大会に開催地の案が示され、古屋研
究推進委員会委員長と尾登企画委員
会総合企画委員長より詳細な説明が

なされた。審議の結果、平成 20 年度
秋季企画大会を、11 月 1 日（土）に
東京芸術大学上野キャンパスで開催
することが承認された。

9. 平成 21 年度春季研究発表大会について

（青木会長）

青木会長より、平成 21 年度春季研究
発表大会の開催地案が示され、國本
理事より詳細な説明がなされた。審
議の結果、平成 21 年度春季研究発表
大会を名古屋市立大学で開催するこ
とが承認された。

10. 会員の移動について

（小野本部事務局幹事）

本部事務局に提出された書類を回覧・
審議した結果、[入会 20 名（うち外国
人 4 名）]、[退会 8 名、賛助会員 1 件]
が承認された。

【報告事項】

11. 総会資料確認のお願い

（國澤本部事務局長）

國澤本部事務局長より、総会資料を
確認し、問題がある場合は 5 月 31 日
（土）までに本部事務局に連絡す
るよう要請がなされた。

12. DSU International Service Innovation Design Conference

（古屋研究推進委員会委員長）

古屋研究推進委員会委員長より、資
料に基づいて DSU International
Service Innovation Design
Conference の紹介がなされた。

13. 横幹連合理事会報告

（山中担当理事）

山中横幹連合担当理事より、5 月 14
日に開催された横断型基幹科学技術
研究団体連合理事会の報告がなされ
た。資料に基づき、2008 年度の新体制、
新体制への 5 つの提案、第 2 回横幹
連合シンポジウム（平成 20 年 12 月
4 日～5 日、筑波大学東京キャンパス）
などについて説明がなされた。また

横幹連合から、学会に理事のほかに担当委員を推薦することが要請されている旨の報告がなされた。

14. 芸術学関連学会連合第3回シンポジウム

(黒川担当理事(代理)
國澤本部事務局長)

黒川担当理事の代理として國澤本部事務局長より、6月14日(土)に開催される芸術学関連団体第3回シンポジウムの案内がなされた。

15. 時空環境学会会議

(尾登副会長)

尾登副会長より、時空環境学会会議の紹介がなされた。

16. 次回理事会資料

(小野本部事務局幹事)

小野本部事務局幹事より、次回の理事会資料を6月23日(月)までに事務局に提出するよう要請がなされた。

記録：寺内

平成20年度 春季研究発表大会報告

平成20年度の第55回春季研究発表大会は、平成20年6月27日(金)から29日(日)まで東広島市の広島国際大学で開催されました。今回のテーマは、「心『こころ』とデザイン」で、遠路にもかかわらず、会員を中心に約400名の参加がありました。

今回のテーマの主旨は、広島国際大学が健康、医療、福祉、心理など人間に関係する学科を中心に構成されていること、その中で、開催学科の感性デザイン学科が人間中心設計をテーマに教育研究を行っていることから、今後、デザインにおいて、より一層の人々の心の研究とそのアプローチが求められると考え設定しました。本大会でのオーガナイズドセッションの「サービスイノベーションデザインの枠組み」と「次世代のデザインプロモーションの課題」は、モノからコト、特に生活者へのシ

フトについて討議があったことは、今後の時代がこの方向を示していると考えます。

大会初日には、広島大学大学院医歯薬学総合研究科の杉山政則副薬学部長による基調講演があり、世界的な競争が激化している最先端のゲノム解析の傍ら、「酒どころ広島から生まれたバイオサイエンス」と題しご講演がありました。その内容は、文部科学省・知的クラスター創成事業のプロジェクト研究のひとつとして採択され酒粕の有効利用技術開発に関する研究テーマの中で、酒粕中に乳酸菌の超増殖因子を発見したことが契機となり、乳酸菌、特に植物乳酸菌の基盤研究です。その応用面での研究成果として、現在、酒粕と植物乳酸菌を活用した新規ヨーグルト製造技術を開発し製品化されています。

2日目と3日目には、前述の「サービスイノベーションデザインの枠組み」と「次世代のデザインプロモーションの課題」の他に、「ロボットがクルマに乗った日・異分野コラボレーションによる価値創造型研究開発のあり方」と題した研究報告がありました。本報告の中で両社は、2007年秋に開催された第40回東京モーターショーにおいて、日産が出展したコンセプトカー「PIV02」に搭載した「ロボティック・エージェント」の開発プロセスを紹介するとともに、業種・専門分野が異なる企業のメンバーが互いに協調し、新しい価値創造を目指したのか、その革新的な研究開発のあり方が紹介されました。3つのセッションとも、会場からも活発な質疑応答と討議がありました。

口頭研究発表(151件)とポスター発表(35件)では、情報デザイン・CG、デザイン史、ファッション、グラフィック・タイポグラフィ、デザイン計画、景観デザイン、デザイン教育、材料計画、形態・構成、地域振興・地域研究、建築・インテリア、インタフェース、ユニバーサルデザイン、デザイン評価、感性工学、デザインマネジメントの各分野にわたって会員の熱心な研究が発表され、会

場での熱心な質疑応答が続きました。

また、前回大会と同様に部会統括の発表として、「デザイン科学の枠組みとその応用」をはじめ11のテーマセッションによるディスカッションが設定され、より専門的で突っ込んだ討議が行なわれました。また、今回の開発事例展示にはマツダ株式会社の御協力により、クレイモデルやスタイルレンダリングなどデザイナーにとっても興味深い積極的な展示が行なわれました。また企業提示には5企業の参加をいただき、デザイン関連の実演、展示を行なっていただきました。

なお、次の2件は直前の発表キャンセルのため、正規の研究発表としての効力を失います。お手元の概要集をご確認下さい。

E17: 建築CAD教育に関する基礎的研究
その1 (辻川ひとみ、吉住優子)

E16: 建築CAD教育に関する基礎的研究
その2 (吉住優子、辻川ひとみ)

日程の第1日目の夕刻にはJR西条駅前にある賀茂鶴酒蔵の施設と酒蔵と通りの街並みを見学し、大いに広島における伝統文化について触れることができました。2日目の夜に行なわれた懇親会には約100名近い参加者があり、盛大に、交流を深めていただきました。

大会に参加された高橋靖先生と寺澤勉先生に対して、名誉会員書が授与されました。

なお、本大会のグッドプレゼンテーション賞には、以下の研究発表が選ばれ、大会閉会式において出席の受賞者に賞状が授与されました(所属省略)。

○A10: 美感を考慮したいけばな作成支援システム(萩原将文、猿渡潤一)

○A17: 医療領域における3次元解析と光造形法を用いたプロダクトソリューションへのアプローチ(齊川義則、國本桂史)

○B07: 意味の構造化プロセスに着目したデザイン方法の提案(永井由佳里、ゲオルギ ゲオルギエフ)

○B14: 連想プロセスとしてのデザイン創造の試行(樺田雄輝、永井由佳里、田浦俊春)

○C12: コンピューターによる子ども

の描画活動のためのインターフェイスデザイン研究(村上泰介)

- C17:「砂場遊び」における幼稚園児のふるまいに関する研究(植村朋弘)
- D19: Exploration into New Grid Systems (Patternized Typography) (Neda Firfova)
- E06: 葉の正しい服用指示デザイン(太田幸夫)
- G04: 動体検知を用いたストレスコーピング・ツールの開発(瀬賀誠一、岡崎章、内藤茂幸、吉川佳孝)
- P07: 病院におけるノーマライゼーションの研究(田上知之介、金永、細谷らら、蓮見孝)

本大会は、全国から企業デザイン関係者、行政デザイン関係者、デザイン教育関係者が多数参加され、今後のデザインの進むべき方向性について討議することができました。本大会の大きな収穫と考えます。



広島大学 杉山政則副薬学部長による基調講演



オーガナイズドセッション
「ロボットがクルマに乗った日」

平成 20 年度総会報告

本部事務局

平成 20 年 6 月 27 日(金)、広島国際大学東広島キャンパスにおいて、第 55 回総会が開催されました。司会進行は國澤好衛本部事務局長が行いました。司会から、出席者数は、会場出席者約 30 名、委任状出席者が 269 名(定数 198 名)、総会が成立することが報告されました。

青木会長から、本年度は基本方針を「会員に取ってよりメリットのある学会」とし、具体的に 10 の基本施策をあげ、会員に取っていろいろな意味でメリットのある学会基盤を構築すべく、活動を展開していきたいとの説明がなされました。

議事は柳瀬徹夫会員(広島国際大学)と平田圭子会員(広島工業大学)の二人の議長団の司会で進行されました。

蓮見孝副会長から平成 19 年度の活動報告があり、つづいて國澤本部事務局長より平成 19 年度の決済報告がなされ、それに対して原田昭監査から監査報告がなされました。その後、会場からの質疑応答を経て議決の結果承認されました。

尾登誠一副会長の平成 20 年度事業計画の説明に続き、國澤本部事務局長から平成 20 年度の予算案の説明があり、質疑応答を経て議決されました。

今回、名誉会員となられた会員の方は、朝倉重治会員(62 号)、栄久庵祥二会員(63 号)、清水忠男会員(64 号)、高橋靖会員(65 号)、寺澤勉会員(66 号)、永田喬会員(67 号)、吉田旺弘会員(68 号)の 7 名です。総会の詳細については、会報末に総会資料を掲載いたしましたので、ご参照下さい。



柳瀬徹夫議長と平田圭子議長



青木弘行会長による
平成 20 年度活動方針説明



尾登誠一副会長による平成 20 年度活動計画



寺澤勉会員へ名誉会員証授与



高橋靖名誉会員からのご挨拶

DTM研究部会活動報告

主査 松岡由幸

平成20年4月18日(金)、慶應義塾大学理工学部矢上キャンパスを会場として、日本デザイン学会 デザイン理論・方法論研究部会(DTM)の2008年度活動:「車座の会:デザイン科学の枠組み構築に向けてーデザイン理論・方法論研究部会(DTM)キックオフ会ー」が開催されました。本活動におきましては、はじめに、DTMの前身であるデザイン方法論部会の主査を務められました古屋繁先生より、ご挨拶およびDTMの今後の発展に向けたエールをいただきました。つぎに、松岡より、DTMの趣旨および今後の活動方針の紹介が行われ、デザイン科学の枠組みづくりとそれに基づくデザイン理論・方法論の基盤構築に関する説明を行いました。また、本活動には、DTMのアドバイザーボードである森典彦先生ならびに青木弘行先生にお越しいただき、デザインの核となる理論・方法論の必要性、多様なデザインにまたがる柱(理論・方法論)の必要性などを述べていただきました。そして、外部からは、経済産業省製造産業局 デザイン・人間生活システム政策室室長補佐の諸永裕一氏他2名の方、ならびに社団法人日本インダストリアルデザイナー協会(JIDA)会長の浅香嵩氏にお越しいただき、DTMの今後の活動への期待を述べていただきました。さいごに、ご参加いただきましたデザインに関わる研究・教育者の方々(学芸大・慶應大・拓殖大・千葉工大・筑波大・長岡造形大・名古屋市立大・武蔵工大・武蔵野美大・山口大)、実務者の方々(エクスカール・エンジニアスジャパン・大倉富美雄デザイン事務所・キヤノン電子・共立出版・ジャストシステム・東芝・東芝テック・日立インターメディック・日産・ホロンクリエイト・ムーブ・レノボ)より、DTMに対する期待や思いを述べていただき、学生を含む約80名の参加者による活発なディスカッ

ションが行われました。今後は、ご提示いただきました様々な意見をもとに、DTMの活動方針を検討させていただく予定です。あいにくの悪天候のなか本活動にご参加いただき、貴重なご意見を賜りました皆様に、この場をかりまして厚く御礼申し上げます。



森典彦先生による講演の様子



青木弘行先生による講演の様子



会場の様子

第56回春季研究発表大会 開催地速報!

平成21年度第56回春季研究発表大会の開催地が決まりました。

開催地: 名古屋市立大学 <http://www.nagoya-cu.ac.jp/>

日程: 平成21年6月26日(金)~6月28日(日)の予定

*上記日程は、あくまでも仮ですので、ご理解の程、よろしく
お願いいたします。

詳細が決まり次第、随時お知らせさせていただきます。

募集案内

平成 21 年度笹川科学

研究助成募集

科学・技術研究の次代を担う人材育成と、その研究を奨励して科学・技術研究振興を図ることを目的として研究助成を募集します。

◆応募部門

・学術研究部門：

申請区分と研究対象領域：

A：一般科学研究 B：海洋・船舶科学研究

・実践研究部門

◆応募方法

申請書：所定の書式を使用する。申請書は下記 URL よりダウンロードできる。

◆応募期間：平成 20 年 10 月 1 日～

10 月 15 日<必着>

※趣旨、助成方針、募集対象者、研究計画と助成額、その他の申請条件等は下記 URL をご覧ください。

◆送付および問い合わせ先：

(財) 日本科学協会笹川科学研究助成係
〒 107-0052 東京都港区赤坂 1-2-2
日本財団ビル 5F
TEL03-6229-5365 FAX03-6229-5369
E-mail:ssrg-jss@silver.ocn.ne.jp
URL:http://www.jss.or.jp

国際デザイン

コンペティション 2008

2008 年度の募集テーマを「地球生活」とし、人類が生まれた、生活の基盤であるこの美しくかけがえのない生命体である地球を、どうすれば次の世代へと引き継げるのか、今日我々が直面しているあらゆる環境負荷を生活の中で如何に改善し、持続性のある豊かで快適なライフスタイルへと誘う商品、システム、ビジネスモデルなどについて独創的で多様な提案を募集します。

◆応募期間：平成 20 年 8 月 4 日～

9 月 5 日

◆応募方法：詳細は、下記の国際デザインコンペティションサイトをご覧ください。

◆応募・問合せ先：国際デザインコンペティション事務局 (E-mail でお問合せください。電話による問合せには応じられません。)

〒 530-0001 大阪市北区梅田 1 丁目 3-1 大阪駅前第 1 ビル 8F (財) 国際デザイン交流協会

FAX 06-6346-2615

E-mail:compe2008@jdf-compe.com

URL:http://www.jdf.or.jp/idc/

催し物

卒業設計日本一展 2008

◆会期：2008 年 8 月 21 日 (木)

～ 8 月 30 日 (土)

◆開館時間：午前 11 時～午後 6 時

(日曜・月曜日は休館)

◆場所：ギャラリー・間

◆監修：監修：卒業設計日本一展実行委員会 (阿部仁史 / 五十嵐太郎 / 小野田泰明 / 竹内昌義 / 槻橋修 / 中田千彦 / 堀口徹 / 本江正茂)

◆主催：ギャラリー・間

◆企画：ギャラリー・間運営委員会 (安藤忠雄 / 川上元美 / 黒川雅之 / 杉本貴志)

◆後援：(社) 東京建築士会 / (社) 東京都建築士事務所協会 / (社) 日本建築家協会関東信越支部 / (社) 日本建築学会

◆特別協力：仙台建築都市学生会議 / せんだいメディアテーク

◆協賛：TOTO

献本御礼

◆寄贈図書

- ・漆百科, 山本勝巳, 丸善
- ・もうひとつのデザイン～その方法論を生命に学ぶ～, 編著者: 松岡由幸, 著者: 河口洋一郎 / 山中俊治 / 吉田和夫 / 村上周三 / 前野隆司 / 門内輝行, 共立出版
- ・POV-Ray による 3 次元 CG 制作～モデリングからアニメーションまで～, 鈴木広隆 / 倉田和夫 / 佐藤尚, CG-ARTS 協会

◆機関誌

- ・たまびNEWS Summer2008 No. 50, 多摩美術大学広報第 50 号
- ・くまもと観光コンベンションNEWS 2008 SUMMER, (財) 熊本国際観光コンベンション協会

◆予稿集・論文集・報告書

- ・多摩美術大学研究紀要第 22 号, 多摩美術大学研究紀要委員会, 2007
- ・北海道立工業技術センター業務報告 平成 17 年度, (財) 函館地域産業振興財団
- ・デザイン理論 52, 意匠学会
- ・京都・東山の森林風致のあり方に関する研究, 高梨武彦, 2008

会員の移動

◆平成 20 年度第 3 回理事会承認 2008. 06. 27

<新入会>

*正会員 25 名 (内, 外国人 8 名)

岩松 里紗	加藤 真弘
河本 敬嗣	小杉 ももこ
北 真吾	齊川 義則
斉藤 雅也	佐賀 一郎
瀬賀 誠一	田中 法博
藤田 知里	宮入 麻紀子
森井 啓太	森野 晶人
安田 光孝	山下 敏男
山中 洋雄	趙 鏞吉
金 相熙	李 夙曜
趙 炫相	李 珍雨
文 熙範	沈 辛勳

Tai-Shen Huang

<退会>

*正会員 7 名

合川 通子	有田 良児
西堀 實	古川 貴雄
松井 英明	山崎 慶昭
宮地 晶子	

訃報

本学会名誉会員である, 出原栄一先生が, 7 月 26 日 (土), 心不全にて 79 歳でお亡くなりになりました。出原先生は, 平成 2 年から平成 5 年まで副会長を務められました。また, 学会功労賞, 学会特別賞を受賞されるなど, 本学会には多大なるご貢献, ご尽力をいただきました。心よりご冥福をお祈りいたします。

平成 20 年度 秋季企画大会

平成 20 年度秋季企画大会を下記の通り、実施します。ふるってご参加ください。また、同時に「学生プロポジション in 東京芸大・学生の構想力」を開催します。

■日時：11月1日（土）10時から

■場所：東京芸術大学・第1講義室ならびにデザイン棟ウッドデッキと展示スペース

■テーマ：デザインから発想されたロボットたち（仮）

■大会趣旨

現在、日本のロボット技術は急速な発展を遂げつつあります。この隆盛の背景には、『鉄腕アトム』が牽引してきた「ロボットのあるべき姿」の共通イメージ（アトムパラダイム）があるといわれています。このことは、空想世界の少年型ロボットが現実世界の技術開発の指標となり、開発をドライブしてきたことを示唆しています。

しかし、デザインについては、もっと多様なパラダイムがあっべきかと考えます。新しいロボットのあり方を提示することこそ、デザイナーの役割ではないでしょうか。そこで、本大会では「デザインから発想するロボットたち（仮）」をテーマに、アトムパラダイムをこえて自由に発想・現実化されたロボットたちをかたわらに、議論を深め、新たなデザイン知の獲得を目指します。

■スケジュール

10:00～：第1講義室

学会行事：学会各賞授賞式

講演

ロボットデザインについての新しい事例を、その発想の起点から実現までを紹介し、新しいパラダイムの手がかりを探ります。

13:30～：デザイン棟：2階ウッドデッキと展示スペース

①「ロボット自慢」：実演・展示

企業や大学、研究所などで実際に研究開発されている事例を実演展示します。

現在、デザイン系大学以外にも、東京大学・東工大・産総研などが出展を予定しています。

②参加者に感想をもらい、デザインの視点からロボットデザインについてまとめます。

③懇親会

■詳細は、随時、学会ホームページ (<http://www.jssd.jp/>) とメールでご案内します。

☆学生プロポジション募集

テーマ：学生の構想力（昨年に引き続き）

場 所：デザイン棟・3階展示スペース

☆「ロボット自慢」募集

「ロボット自慢」では、授業・卒研・修論等での事例のなかで、実演・展示（モックアップ・ビデオなど）可能なものを募集します。

☆詳細は、学会ホームページ (<http://www.jssd.jp/>) とメールでご案内します。

ふるってご参加ください。

企画委員会 委員長 尾登誠一（東京芸大）
研究推進委員会 委員長 古屋繁（拓殖大学）

デザイン シンポジウム 2008

共催：日本デザイン学会（幹事学会）、

日本機械学会、日本設計工学会、日本建築学会、精密工学会、人工知能学会

協賛：International Association of Societies of Design Research, The Design Society,
横断型基幹科学技術研究団体連合

開催日：2008年11月21日（金）、22日（土）

会場：慶應義塾大学 矢上キャンパス（最寄り駅：東急東横線日吉駅）

趣旨：20世紀までのデザイン（ここでの”デザイン”は、工業デザイン・工学設計など、あらゆるデザインを含みます）は、その対象や領域ごとに専門化と細分化を推し進め、それぞれが独自の手法や方法論を構築してきました。その結果、現在の専門化・細分化された各デザイン間においては、共通となる基盤や土俵がないことに伴い、デザイン情報の共有や協調の難しさといった新たな課題が生まれ、今日に至っています。

一方、21世紀のデザインは、深刻化する環境問題、一向に減少しない大規模事故など、自らが引き起こした多くの課題に苦悶する事態となっており、専門化・細分化されたデザインは、これらの課題に対し、一丸となって取り組んでいく必要があります。

このような背景を受け、デザイン シンポジウム 2008 では、共通の基盤となるデザイン科学が必要であるとの認識のもとに、デザイン科学の枠組みの構築に向けた議論を行いたいと存じます。本シンポジウムでは、招待講演、一般講演、パネルディスカッションを実施します。デザイン実務に携わる方々、様々なデザイン領域の教育者や研究者の方々など、多数の皆様の積極的なご参加をお願い致します。

講演募集キーワード：（ここでの”デザイン”は、工業デザイン・工学設計など、あらゆるデザインを含みます）

(1) デザイン理論、(2) デザイン方法論、(3) デザイン方法、(4) デザイン実務、(5) デザインマネジメント、(6) デザイン知識、(7) デザイン工学、(8) システムデザイン、(9) 最適デザイン、(10) 創発デザイン、(11) 発想法・創造技法、(12) 協調・共創デザイン、(13) 複合領域デザイン、(14) サステナブルデザイン、(15) ユニバーサルデザイン、(16) ロバストデザイン、(17) エコデザイン、(18) サービス工学、(19) 感性デザイン、(20) ユーザビリティ、(21) エルゴノミクスデザイン、(22) インタラクティブデザイン、(23) プロダクトデザイン、(24) ファッションデザイン、(25) マテリアルデザイン、(26) 制御系デザイン、(27) ロボットデザイン、(28) 医療福祉デザイン、(29) 都市・建築デザイン、(30) メディアデザイン、(31) 情報デザイン、(32) グラフィックデザイン、(33) 広告デザイン、(34) インターフェースデザイン、(35) カラーデザイン、(36) CAD/CAM/CAE、(37) CG・VR、(38) 形態論・構成学、(39) デザインサーベイ、(40) デザイン哲学、(41) デザイン史、(42) デザイン教育、(43) デザインと社会、(44) デザインと文化、(45) デザインと政策、など

日程：

《招待講演》 11月21日（金）午後

稲蔭 正彦 氏（慶應義塾大学大学院 メディアデザイン研究科 委員長）
『メディアデザイン進化論』

深澤 直人 氏（NAOTO FUKASAWA DESIGN 代表、プロダクトデザイナー）
『見えない関係を形にする』

《一般講演》 11月21日（金）午前、22日（土）午前・午後

《懇親会》 11月21日（金）夜

※上記日程につきましては一部変更の可能性もございます。予めご了承ください。

発表申込要項：

共催学会会員ではない方にもご発表いただけます。郵送または電子メールにて下記の発表申込宛先までお申込下さい。

□郵送の場合

A4判の用紙に「デザイン シンポジウム 2008 発表申込」と題記し、(1) 題目、(2) 登壇者・連名者の氏名（登壇者に*印）、共催学会員の方は学会名・会員資格、(3) 所属機関名・所在地、(4) 連絡先氏名・住所・電話番号・FAX 番号・電子メール

アドレス, (5) 該当する講演募集キーワードを記入の上, A4 判で 1 頁 (図表等含む) の発表概要を同封してください。

□電子メールの場合

Subject 名を「デザイン シンポジウム 2008 発表申込」とし, 上記 (1) ~ (5) を記載した電子メールに, 上記発表概要の PDF ファイルを添付して下さい。

発表申込宛先:

〒 223-8522 神奈川県横浜市港北区日吉 3-14-1
慶應義塾大学 大学院理工学研究科 総合デザイン工学専攻
デザイン シンポジウム 2008 担当 青山 英樹
Tel. 045-566-1722 / e-mail: happyo_design@ina.sd.keio.ac.jp

発表申込期限:

2008 年 8 月 4 日 (月)

採択通知:

デザイン シンポジウム 2008 運営委員会にて発表内容を審査のうえ, 2008 年 9 月上旬に通知いたします。

最終原稿:

採択された発表は, デザイン シンポジウム 2008 運営委員会の指定した書式に従い, 原則として A4 判 4 枚 (ただし偶数枚で最大 8 枚まで可能) の最終原稿をご作成いただきます。

最終原稿提出先:

〒 223-8522 神奈川県横浜市港北区日吉 3-14-1
慶應義塾大学 大学院理工学研究科 総合デザイン工学専攻
デザイン シンポジウム 2008 担当 青山 英樹
Tel. 045-566-1722 / e-mail: happyo_design@ina.sd.keio.ac.jp

最終原稿提出期限:

2008 年 10 月 17 日 (金)

参加申込要項:

参加される方は事前登録をお願いいたします (発表者の方も参加申込が必要です)。

「デザイン シンポジウム 2008 参加申込」と題記 (電子メールの場合は Subject 名) し, (1) 氏名, (2) 所属学会名・会員資格, (3) 勤務先・所属部課名, (4) 連絡先所在地・電話番号・FAX 番号・電子メールアドレス, (5) 懇親会への出欠の有無を明記し, 下記の参加申込宛先に電子メールまたは A4 判の用紙にて FAX, 郵送でお申込み下さい。

共催学会員	正会員	10,000 円	(論文集 1 冊含む)
	学生会員 (登壇者)	5,000 円	
	学生会員 (聴講のみ)	無料	(論文集なし)
非会員		13,000 円	(論文集 1 冊含む)
論文集のみ		5,000 円	

※懇親会を開催する予定です。参加登録者 (聴講のみの学生は除く) の懇親会参加費用は無料の予定です。

参加申込宛先:

〒 223-8522 神奈川県横浜市港北区日吉 3-14-1
慶應義塾大学 大学院理工学研究科 総合デザイン工学専攻
デザイン シンポジウム 2008 担当 青山 英樹
Tel. 045-566-1722 / e-mail: sanko_design@ina.sd.keio.ac.jp

Web ページ:

シンポジウムの最新情報は, 順次, 日本デザイン学会ホームページ (<http://www.jssd.jp/>) 上に掲載しますのでご覧下さい。

問合せ先:

〒 223-8522 神奈川県横浜市港北区日吉 3-14-1
慶應義塾大学 大学院理工学研究科 総合デザイン工学専攻
松岡 由幸 (デザイン シンポジウム 2008 運営委員会委員長)
Tel. 045-566-1519 / FAX 045-566-1495 / e-mail: designjuku@mech.keio.ac.jp